



食品廃棄物リサイクルシステム

各地で実施しているリサイクルループの環

農林水産省 リサイクル野菜認定第1号

三重県でユニーと一緒に食品リサイクルに取り組んでいる「三功」「酵素の里」では、2009年農林水産省が進めている循環型農業の取り組みが認められ、「リサイクル野菜」の認定を受けました。



「酵素の里」
中西あかねさん

三功グループである「酵素の里」は、2000年11月津市近隣の農家の協力のもとに設立されました。スーパーやコンビニなどから排出される食品残さを発酵させた堆肥「有機みえ」で農作物を育て、育てた農作物を再びスーパーの売場で販売するという環境に配慮したリサイクルループが特徴です。「酵素の里」のメンバーの農家が育てる農作物の多くは、「みえの安心食材」の認証を受けています。さらに2009年4月に実施された「食品リサイクル製品 ― 認証普及制度」において循環型社会の形成に貢献する環境にやさしい農作物として国内第1号の認証を受けました。

その他のリサイクルループ



食品リサイクル推進に向けての取り組み

■ JAとの消費者交流会

店舗から排出される食品残さを原料にした堆肥で野菜づくりを行っている農家と消費者の交流会を定期的に行っています。野菜や果物の収穫体験を通して、安全安心な作物づくりにかける農家の努力を知り、食品リサイクルループの紹介とあわせて、消費者の方にはリサイクルの環のつながりを実感していただきました。採れたて野菜や郷土料理の昼食会では、消費者・農家それぞれの立場から意見交換がなされ楽しい交流会となりました。



■ 収穫体験

食品リサイクルループで栽培している米や野菜の収穫を、子供達に体験してもらいました。普段は苦手の野菜でも、自分で採った野菜は食べられる子供がたくさんいます。また堆肥場の見学では、堆肥の山に手を入れ熟成の温度を感じたり、においを嗅いだりして食品残さが堆肥に変わる様子を体験しました。堆肥をさわって、自分の手で野菜を収穫することで、食べるということは、多くの生物との関わりによって成り立っているという「生物多様性」を学びました。



■ 世界国連地域支援センター第37回地域開発国際研修コース

ユニーはこの研修プログラムの1日に「3Rの実践、リサイクルループ（食品残さ・容器包装）」の視察と講義を担当しました。研修には、途上国の中央・地方自治体の職員（国籍はバングラディッシュ、インド、ベトナム、エチオピア、ウガンダなど13カ国）が参加し、持続的な地域開発を推進するために開発途上国の地方自治体職員の能力向上を図ることを目的としたものです。

研修当日は、ユニーのエコストアである「リーフウォーク 稲沢」の環境施設や活動の視察、食品リサイクルループのパートナーである、再生利用事業者D.I.D、JAあいち海部、物流センター内のリサイクルセンター（容器包装の集約）を回りながら実務者や生産者との交流も行い、研修生だけではなく従業員や関連する方々にも有意義な1日となりました。

